

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッションや生徒の実態、ニーズに即した魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。 ③持続可能な社会の造り手として必要な資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	①新教育課程の実施に伴い、生徒のニーズ及び選択科目の設定等に関して学校教育目標との整合を検証する。 ①新教育課程の実施に伴い、生徒のニーズ及び選択科目の設定等に関して学校教育目標との整合を検証する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現を目指して全ての生徒に対してインクルーシブな取組を構築する。 ③ICT機器の利活用を促進するとともに、板書や発問なども活用して生徒の主体的な取組を重視した授業改善を目指す。	①生徒による授業評価の結 果や進路結果、選択科目 履修者数から生徒のニー ズを把握し、次回の教育 課程検討につなげる。 ①修学旅行・校外学習等につ いて、学校教育目標を 踏まえつつ、学校全体の 考え方と生徒のニーズを 鑑みながら検討調整す る。 ②全校生徒対象の講演会及 び教員対象のインクル ーシブ講演会を実施する。 ③研究授業や教員相互の授 業観察を推奨し、ICT 機器を利活用した生徒の 主体的な取組を模索でき る機会を提供する。	①生徒による授業評価や魅 力特色アンケートは、肯 定的な意見であったか。 ①実際に引率した学年団と 情報を共有し、3年程度 の期間ごとに再度検討す る。 ②講演会のアンケート結果 が、共生社会の実現に向 けて前向きな意見であつ たか。また、講演会の内 容は、授業や生徒対応に 反映することができた か。 ③教員相互の授業観察や研 究授業を行うことができ たか。また、生徒の主体 的な取組を促すことを目 的としたICT機器を利 活用できているか。					
2	生徒指導・支援	①他者を思いやり、尊 重できる自立した生 徒、自らの夢や目標 に向かって果敢にチ ャレンジできる生 徒、心身ともに健や かで、逞しい生徒の 育成を図る。 ②規律と秩序のある生 徒指導。きめ細かい 支援を確立し、一人 ひとりが正しい道徳 観や社会性を醸成で きるような体制を構 築する。	①学校行事、委員会活 動、部活動等、生徒主 体の活動経験を積み重 ね、社会の変化に柔軟 に対応できる思考力、 行動力を向上させる。 ①学校行事では、多様性 を重視しながら取り組 める仕組みを構築し、 インクルージョンの意 識向上を図る。 ②学校生活での規律徹底 や挨拶、マナーの向上 と公共交通機関や自転 車乗車マナーの向上。 また、お互いを思いや る気持ちの醸成。 ②教育相談係とSCやSS Wとの連携の強化及 び生徒情報の共有。	①生徒主体の活動機会を 広げ、変化し続ける状況 や条件、ルールへの理解 を深め、自ら進んで創意 工夫を重ねられるように 支援する。また、他学年 との交流を図り、多様性 を意識し、個を尊重でき る仕組みを構築する。 ②ポスター制作やあいさ つ運動、マナーアップ キャンペーン、スケー ード・ストレート方式 による自転車安全教育 や各講演会等を活用し 、意識やマナーの向上 や他者を思いやる気持 ちを醸成する。 ②個々の生徒に対して 組織的な対応ができる よう家庭とSC、SSW や外部機関との連携 体制を構築する。	①生徒主体の活動を行う ことができたか。委員 長会、部長会等のリー ダー主導の活動を行う ことができたか。 ①他学年との交流が できる行事を行うこと ができたか。 ②それぞれの講演会等 を実施した上で、意識 調査などの振り返りを おこない、生徒へのフ ィードバックを行うこ うできたか。 ②教育相談係とSC、 SSWと家庭・外部機 関の連携体制の構築 ができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりがより良い進路選択ができるような能力の育成、および生徒・保護者等に対して適切な内容と量の情報を受け取れるような機会の充実を図る。	①生徒の様々な進路選択に寄り添えるよう、総合的な探究の時間の内容や説明会のあり方を再検討し、より高い目標に向けた計画的な取組を推進する。 ②主に英語の資格・検定試験に関して、その成果を進路選択に生かすことができるような指導を構築する。	①生徒自らが適切な進路選択が行えるよう、進路先となる上級学校との交流機会を増やし、総合的な探究の時間での進路計画の充実を図る。 ②資格・検定試験の広報を充実させるだけでなく、英語科と連携した指導を前向きに検討する。	①前年度と比較して、進路先の説明会や交流会の機会を増やすことができたか。 ②生徒の目的意識を高めるような広報を行うことができたか。また、具体的な指導法を実践することができたか。					
4	地域等との協働	①地域との交流や協働、地域貢献等を通じて、地域と共にある学校づくりに取り組む。 ②在校生や保護者等地域社会に対して、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための情報発信を行う。	①霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、地域との交流・連携事業で生徒による広報活動の推進を図る。 ②デジタルサイネージを活用して生徒に本校の魅力を校内発信し、生徒自らが本校の魅力を発信できる仕組みを構築する。 ②ホームページの迅速及び定期的な更新により、保護者や地域の方々への情報伝達を図る。	①全公立展や学校説明会等の校外での広報機会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、生徒による広報活動の機会を提供する。また新たな広報グッズの製作により霧コンシェルジュ等への登録者数増加を目指す。 ②デジタルサイネージでは、情報発信とともに部活動結果や行事の様子などを随時発信し、本校の魅力を生徒に伝える。 ②ホームページの全体的な体裁を整え、閲覧者が情報を獲得しやすいページ構成へ改善を図る。推進する。また学校行事や部活動等、本校の魅力的な部分はホームページに掲載し、迅速な更新により魅力的なホームページによる閲覧数の増加を図る。	①全公立展や学校説明会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用できたか。また、新たなグッズを製作し、登録者増に向けて周知できたか。 ②デジタルサイネージで霧高の魅力を発信することができたか。 ②ホームページでは、学校行事や部活動等の発信ができたか。また、新たな本校の魅力発信ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①保護者・地域から信頼され、生徒が安心して学べる安全で快適な学校づくりを行う。 ②自他の生命を尊び、大きな災害にも対応できる高い防災意識を育む。 ③不祥事や事故を未然に防止する職場環境づくりを行う。	①体育館の耐震工事にあたり、行事等を支障なく行って、生徒が充実した高校生活を送ることができるようにする。 ②自他の生命を尊重する意識と、迅速に行動する危機意識を醸成する。 ③快適で使いやすい職員室環境を整備する。	①各グループや学年団と緊密に連携し、前例にとらわれずにより生徒や保護者の心に響く行事の在り方を検討する。 ②防災訓練やD I G訓練を通じて災害を自分事としてとらえる意識の醸成を図る。 ③オフィス環境改善事業を活用して机・イス・什器類の一新を図る。	①各グループや学年団との連絡調整が支障なく行われ、行事等が円滑に行われたか。 ②生徒へのアンケートで、防災意識が高まったと回答する生徒が増加したか。 ③教職員へのアンケートでほとんどの教職員が働きやすい環境になったと回答したか。					